

# 教育課程編成委員会

## 2019年度 第1回委員会 議事録

### 1. 日時および場所

日時：2019年10月10日（木）18：00～20：15

場所：修成建設専門学校 129 教室

### 2. 出席者

学外委員

倉方俊輔、西濱浩次、鍵山昌信、田中義久、辻裕樹、東泰紀、佐藤榮一、  
小松原学、大上哲男、中村裕輔、坂入喜代枝、市岡武、壺山和憲、小島章、  
富山毅、槇村吉高、村松雄一郎、森本和真

学内委員

山下裕貴、堤下隆司、見邨佳朗、谷川博康、増田和浩、鍵谷啓太、釜友知與子、  
樋下昌俊、野瀬孝男、明石祥子、上杉敬史

以上 29 名

### 3. 配布資料

資料1－1：2019年度第1回委員会 議事次第

資料1－2：委員一覧

資料1－3：Recruit Information（修成建設専門学校）

資料1－4：「卒業展 2019」審査員依頼状

### 4. 議事次第

#### （1）開会挨拶

堤下校長から開会挨拶に続き、教育課程編成委員会の概要説明・卒業展開催の案内があった。

山下理事長から学園の現状について報告があった。

#### （2）委員出席確認と挨拶

#### （3）議事内容説明

##### 1）教育課程編成委員会について

堤下校長から議事内容について説明が行われた。

##### 2）本校設置学科の特長

各学科長より本校の就職用冊子 Recruit Information を使用し、内容、特

長、カリキュラムの説明が行われた。

- 建築学科（昼・夜）・・・増田委員
- 建築CGデザイン学科・・・見邨委員
- 空間デザイン学科・・・鍵谷委員
- 住環境リノベーション学科・・・樋下委員
- 土木工学科、建設エンジニア学科・・・野瀬委員
- ガーデンデザイン学科・・・明石委員
- 専科2級建築士科・・・釜友委員

### 3) 進路係よりの説明

進路係長上杉委員より本校の進路状況、インターンシップなどの取り組みについての説明があった。

### 4) グループ討議

- A) 建築グループ・・・・・・・・司会：鍵谷 記録：増田  
倉方、西濱、鍵山、田中、辻、東、佐藤、中村、坂入、市岡  
山下、見邨、増田、鍵谷、釜友、樋下 以上16名

鍵谷：本校ではアドミッションポリシー、スキルだけではなく学ぶ姿勢も重視している。カリキュラムはキャリア教育と専門教育に分かれる。各科の目標をふまえて、各科の資格の内容が異なる。各学科で特色に合わせた資格を目指しているが、業界を目標とした学生に対して、在学中に必要な資格、モチベーションを保たせる資格があれば各委員に意見を聴きたい。

倉方：仕事の姿が見えてくる資格、知識を高める資格であればいいのではないかと。

西濱：私自身、社会に出て必要と思われる資格を取得したが、あまり使わない。ただ、時代が変わってきて、いろいろな業界で使うことが必要になる資格がある。資格よりも姿勢、人間作りが必要で、資格のために勉強することが大切と思っている。また、住環境リノベーション学科の名称を施工管理学科などに変更してはどうか。

鍵山：建築家の講演会、リノベーションの講習会、建築の説明会など、資格だけではなく、勉強する機会を多くしてはどうか。

田中：資格は実務が伴ってだと思ふ。また、施工管理技士の資格は不足している。2級建築士は、1級建築士の前座ではなく、規模は異なるが大切な資格と考える。また、省エネに関する授業・カリキュラム・資格を考えてみてはどうか。

辻：現在は建築士の高齢化が叫ばれ、人材不足である。今回の法改正で建築士の総数が増えていくと思うが、学校でも力を入れてほしい。資格にはCAD化も考えられ

ているので事前調査をしておく必要がある。資格は複数の国家資格を取得すれば仕事上の強みにもなるので組合せを考えてほしい。

東：今はこれらの資格で適当かと思う。興味をもって前進する。自分の道を見つけていく。目標に向かって進んでいくことが大切である。また、資格はゴールではなく、取った後のモチベーションが大切である。

鍵谷：資格や勉強の意味を伝えることは大切だが、業界としてどのような人材を必要としているかを話していただきたい。

佐藤：業界として資格は始まりで、情熱が大切である。学校は2年間なので、基礎を学ぶことは大切だが、業界を日本の中だけで考えるのではなく、外国の人たちとの交流の機会を与え、ハングリー精神を学ばせることも必要である。

中村：私の仕事としているデザインは最終的にできたものが評価される。業界ではスタンスや経験値が大切で、法令など実務で重要なことがあり、建築士が知らないことも多い。ただ、大きなプロジェクトがあると建築士をもっていないと仕事にならないし、インテリアプランナーも重要である。学生のときに勉強することはいいことである。

坂入：私の会社としては施工管理技士が必要であり、業界に入ってミスマッチがある。玉掛けなどを取得させてほしい。会社ではコミュニケーション、自分から働きかけることが必要とされる。発言させる機会を与える授業を行ってほしい。

市岡：社会のニーズとしては資格が必要である。特に主任技術者は求められている。2年間で学んで得た資格は励みになる。学校は夢のある知的創造のフィールドであってほしい。入社した卒業生は企業の責任で育てていくことが必要と考えている。

鍵谷：学校では、モチベーションを高めるひとつとして資格を考えている。

B) 土木・造園グループ・・・司会：堤下校長 記録：明石  
小松原、大上、壺山、小島、富山、楨村、村松、森本  
堤下、谷川、野瀬、上杉、明石 以上 13名

堤下委員から

①「カリキュラムの充実に向け、今後の専門学校に必要な教育とは何か？」と外部委員へ意見を求めた。

- ・専門学校として大学との差別化が必要であり、実践教育(実学)を実施する中で実務的なコミュニケーション能力やマネジメント能力を身に付けさせることが重要。
- ・技術よりもスタンスを重視した教育を行うべき。
- ・新入社員はCADができて当然になってきている。専門学校として、より充実した

教育を目指すのであれば GIS や 3 次元 CAD の導入も検討すべきではないか。

- ・芸術系大学を卒業し造園の道に入ったが、専門学校教育は実践教育で即戦力を養うもので、大学とは比べ物にならないと感じた。
- ・設計を行う上でスケール感が非常に重要と考える。学生のうちからコンベックスを携帯するなど、日々気に掛けるように指導をお願いしたい。
- ・最近の業界の流れとして「i-Construction」、「リニューアル」、「維持管理」の市場が広がっている。新たな知識として学びを広げる。
- ・行政は専門職として知識のある人材を起用したいと考えているが、専門学校生からの応募が少ない為、就職先としてもっと検討を勧めて欲しい。
- ・コミュニケーション能力、表現力があり、一般的なルールの守れる人材を求める。
- ・これまでに在學生や卒業生の指導に当たって感じることは、それぞれに興味のあること、学びたいこと、好きなことは自然に身に付き、上達する。そうでない不得意分野を、在学中にしっかりと伸ばしてやることこそが卒業後の彼らにとって、最も役立つことだと考える。

②「早期離職問題についてどのように考えておられるか？また、新入社員に望むことは何か？」と外部委員へ意見を求めた。

- ・卒業生の早期離職は、企業側が入社前に事業内容や勤務条件をはじめ、ビジョンをしっかりと伝えきれていないことが理由の一つかもしれない。インターンシップを最大限に活用し、ミスマッチをなくす努力をしていきたい。また、就職する本人だけでなく、保護者にも今の建設業を知って貰う機会をつくり、昔とは違い安心安全な職場環境だということをもっと理解していただきたい。
- ・すぐに辞めてしまう新入社員は 1 ヶ月研修の後、各配属先ですぐに即戦力として扱われ、戸惑ってしまうのではないかと考えている。働き方改革や人材育成は企業にとって大きな課題である。
- ・新規事業は少なくなり、社会ニーズは管理業務へ移行してきている。携わる仕事は多岐に渡り、分野内でやりたいことが絞り切れずミスマッチで離職してしまうケースが多いように思う。

##### 5)「卒業展 2020」の審査方法について

堤下校長から卒業展の審査方法についての依頼と内容説明がされた。

(4) 次回開催日時について

日時：2020年2月1日（土）15：00 から

場所：修成建設専門学校 129教室

内容：「卒業展 2020」グランプリ、準グランプリ選考

2019年度各学科カリキュラム実施報告

その他

以上（記録・文責：増田和浩 明石祥子）